

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 67
2008(平成20)年6月23日(月)発行

<1945(昭和20)年6月23日は、「鉄の暴風」とよばれた米軍の猛攻撃で沖縄の日本軍壊滅の日>
第二次世界大戦末期、米軍は4月1日沖縄本島に上陸を開始。6月18日には沖縄本島最南端の摩文仁
では女子生徒が集団自害。6月23日、日本守備軍は壊滅。沖縄軍司令官牛島満中将と参謀長は割腹自殺。
約10万の島民を犠牲に、6万6千の日本軍兵、米兵1万2千が戦死した。現在は「沖縄慰霊の日」。

木の実

(南方の熱帯林で苔むしていた、
日本兵のしゃれこうべに)

茨木のり子

高い梢に
青い大きな果実がひとつ
現地の若者はするする登り
手を伸ばそうとして転がり落ちた
木の実と見えたのは
苔むした一つの髑髏である



ミランダナオ島
二十六年の歳月
ジャングルのちっぽけな木の枝は
戦死した日本兵のどくろを
はずみでちよい引掛けて
それが眼窩であつたか 鼻孔であつたかはしらず
若い逞しい一本の木に
ぐんぐん成長していったのだ

生前
この頭を
かけがえなく いとおしいものとして
掻き抱いた女がきつと居たに違いない

小さなこめかみのひよめきを
じつと視ていたのはどんなな母
この髪に指をからませて
やさしく引き寄せたのは どんな女
もし それが わたしだったら...

絶句してそのまま一年の歳月は流れた
ふたたび草稿をとり出して
嵌めるべき終行見せず
さらに幾年かが逝く

もしそれがわたしだったら
続く一行を遂に立たせられないまま

▲会員のKさんから、上の「茨木のり子」の詩を紹介されました。「生前いとおしく掻き抱いた女」
がいたはずの日本兵の「どくろ」が、「木の実」となった恐ろしさ。○熱帯の南の島々や海底深く、厳寒のシベリア
にも、そして旧満州国の大地に、今も放置されたままの数十万の日本人の「どくろ」。もしもそれが肉親だったら。
○戦後処理も反省も曖昧に60年、のど元過ぎて熱さも忘れ、着々と次の戦争の準備を進めている日本国です。
▼上の詩と対称的な「竹内浩三「骨のうたう」」の詩もよく知られています。

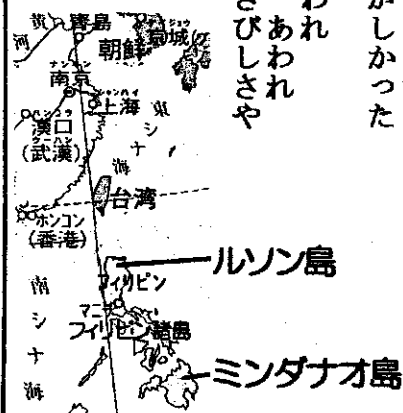
骨のうたう

竹内浩三

戦死やあわれ
兵隊の死ぬるや あわれ
遠い他国で ひよんと死ぬるや
だまって だれもいないところで
ひよんと死ぬるや
ふるさとの風や
こいびとの眼や
ひよんと消ゆるや
国のため
大君のため
死んでしまふや
その心や

白い箱にて 故国をながめる
音もなく なんにもなく
帰っては きまじくたけれど
故国の人のよそよそしさや
自分の事務や女のみだしなみが大切で
骨は骨 骨を愛する人もなし
骨は骨として 勲章をもらい
高く崇められ ほまれは高い
なれど 骨はききたかつた
絶大な愛情のひびきをききたかつた
がらがらどんどんと事務と常識が流れ
故国は発展にいそがしかった
女は化粧にいそがしかった

ああ 戦死やあわれ
兵隊の死ぬるや あわれ
こらえきれないさびしさや
国のため
大君のため
死んでしまふや
その心や



竹内浩三は1921(大正10)年三重県伊勢市生まれの無名の天才詩人。●日大芸術学部映画科を繰り上げ卒業。出征し1945(昭和20)年4月9日、フィリピンのルソン島の山中で、23歳の若さで戦死します。●「骨」とは自分のことで、すでに戦死を覚悟してその後のことを思い描いた詩で、日本が敗戦する前に書かれているのに、戦後の日本の復興ぶりや高度成長の姿や女の変身ぶりを、恐ろしいほど鋭く洞察していて衝撃的です。●宮沢賢治や良寛にあこがれ、マンガを描きユーモアのある若者でしたが、その無念さが伝わってきます。

雨の中、原町飛行場など戦跡を見学

◇郡山市の「こーぷふくしま九条の会」◇

◆現在、戦争時代の軍の施設などを「戦争の遺跡（戦跡）」として、戦争を風化させないため保存しよう、見学しておこう、という静かな運動が全国的に起こっています◆五月三十一日、「こーぷふくしま九条の会」の六十名が原町飛行場などを見学されました◆感想文には、「初め原町に問い合わせたら地元の人もよく知らないし、笑われてしまった」「でも大槻明生さんの案内が大変懇切丁寧で感動し感謝している」「文字だけでなく、足下の戦跡のその場に行き足で確かめることが大事」「特攻隊を美化しないために事実を知ることが大切」「野馬追以外の原町のもう一つの顔を見た」等々。◆6月2日付「福島民報」

特攻隊員思い平和願う

こーぷふくしま 原町で戦跡めぐり

こーぷふくしま平和委員会主催の戦跡めぐりは五月三十一日、南相馬市原町区の夜の森公園や原町飛行場跡などで行われた。



機銃掃射を受けた神社の石碑を見学する参加者

会員や組合員約六十人が参加した。南相馬市の原町区芸術文化協会師を務め、戦時中、神

風特攻隊員を育成した基地などを案内した。

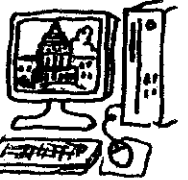
夜の森公園で、旧原町市出身の特攻隊員として戦死した中野磐雄少尉と特攻機を援護し、米軍機との空中戦で戦死した志賀敏美少尉の慰霊碑を見学。原町飛行場跡では、格納庫のコンクリート礎石や機銃掃射を受けた神社の石碑など戦争の傷跡に触れた。

参加者は戦争で散った若い命や生々しい痕跡を目にしながら、平和への思いを新たにしていた。

- ・戦跡ガイドブックとしては ○岩波書店のジュニア新書『日本の戦跡を見る』¥780
- 同 『訪ねてみよう・戦争を学ぶ・ミュージアム/メモリアル』¥780
- 同 『戦争遺跡から学ぶ』¥820

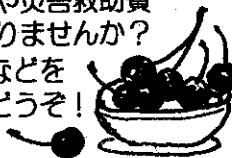
インターネットで「鈴木安蔵」の通信講座をどうぞ！ 新しい発見を！

福島県民カレッジのインターネット配信講座（e-夢・まなびと）では、本会会員の若松丈太郎さん（福島県現代詩人会会長・郷土詩家）が、憲法学者「鈴木安蔵」について15分間の紹介講座をされています。○「<http://www.manabito2.fks.ed.jp>」、または「e-夢・まなびと」と入力し、以下、「講座一覧」「ふくしまの偉人から学ぶ」「日本の将来を憂う 鈴木安蔵」と順に選択してください。



事務局より

- ◇事務局に、大看板のカンパをはじめ励ましや慰労、また住所変更などのお便り、ありがとうございます。大看板のカンパはさらに頑張って集めないといけません！
- ◇2月の総会でもご意見がありました。九条の会の会員拡大や、特に若者の理解を得るためインターネットホームページ開設などを考えていました。でも事務局の能力の限界、また社会問題になっているように匿名の中傷書き込みなどが予想され不安です。もうしばらく検討します。
- ◇小林多喜二の「蟹工船」が大ブレイク。1953年製作の同名映画（山村聡監督）のビデオ上映会が先月西東京市の「高齢者九条の会」主催で開催され、予想以上に大勢の方、若者の入場も多かったそうです。派遣社員やワーキングプアなどで、若者も怒っています。高齢者だって医療制度や年金などで怒髪天を衝いています。
- ◇同じ国民の怒りでも韓国の場合は、牛肉輸入問題であんなに激しい何十万人デモで反対を訴えます。アメリカのポチでいいなりの日本。拉致問題も有耶無耶に。
- ◇大地震や大災害が起こるたびに、防衛費を削減し、地震予知や災害救助費に、福祉や医療や教育費にまわせーと大きな声で言いたくなりませんか？
- ◇『九条はらまち』に、皆様には知らせたいこと、言いたいことなどをお寄せください。次回で20回の「私の戦争体験」の原稿もどうぞ！



< 訂正 >

『九条はらまち』64号一面シロタ女史の言葉の1.目。「松本蒸治」は「松本丞治」の誤りでした。●松本丞治は、終戦直後の1945（昭和20）年10月国務相として幣原喜重郎内閣に入閣し、いわゆる「憲法改正政府案（松本案）」を作成します。しかし明治憲法と変わりのない保守的な内容で、GHQに採用されず、鈴木安蔵らの草案が採用されることになりました。●「蒸治（じょうじ）」という名は、父松本莊一郎が米国に留学した際、アメリカ初代大統領ジョージ・ワシントンに大変感動心酔し、長男の名として「蒸治」と命名したそうです。

事務局員連絡先（市外局番は TEL0244）

- ・平田慶喜会長 TEL24-1211
- ・山崎健一事務局員 TEL22-8631
- ・井上由美(会計) TEL22-7511 FAX26-0892
- ・石田賢二 TEL22-4037
- ・早坂吉彦 TEL22-0326
- ・香場恵子 TEL22-0715
- ・岡田光生 TEL23-1921